

**第8回 理研バイオリソースセンター リソース検討委員会 諮問事項について  
微生物材料開発室**

日 時 平成24年2月29日(水) 14:00~16:32

場 所 富国生命ビル23階 理化学研究所 東京事務所 大会議室

出席者

(委員等) 渡邊 信 委員長、篠田 純男 鈴木 健一郎 炭田 精造 各委員

(文科省) 土屋ゲノム研究企画調整官、細野係長

(事務局) 小幡BRCセンター長、阿部BRC副センター長、大熊微生物材料開発室  
長、今泉研究推進部長、村上企画課長 他

1. 実績について

評価コメント

【収集・保存・提供事業の量的・質的向上】

- 収集・保存、品質管理、提供、利用による成果、研究開発成果、広報、研修、国際連携と多方面にわたる事業内容を、高いレベルでしっかりとこなしている。リソースの寄託及び利用の状況を詳細に解析していることとその内容、多くの寄託認証発行数、公開率70%、Date baseの改良等も評価できる。このような活動を担保しつつ、筑波移転準備、震災復興支援等へ対応したことについても、高く評価できる。
- 細菌、アーキアの基準株を主体として収集・整備をすすめ、寄託数、保有数が世界2位の地位を維持していることは高く評価できる。
- 世界3大リソースバンクの他の二つと比べて人材、予算等の量が少ないにもかかわらず、対等なレベルに位置していることは高く評価したい。

助言・提言

【収集・保存・提供事業の量的・質的向上】

- 酵母、糸状菌のリソースは、なかなか主導的にはなりにくいですが、細菌・アーキアと共に微生物の総合センターとしては不可欠であり、その課題設定を注意して生かしてほしい。

【その他】

- 国際連携や生物多様性条約への対応（'93年以降の登録株について原産国の調査を完了、室員を条約関係の会議に派遣等）における活動を評価する。今後もこのような活動が必要であるという国際環境は続くと思われるので、継続して活動してほしい。
- JCM株を利用した特許についてもフォローしている事を評価する。提供株を利用した特許の請求範囲に記載されているJCM株（ごく少数と理解）について、原産国との合意などの手続き面についても適切かどうか、留意しておくことが必要と思われる。

2. 次期中期計画及びNBRP計画について

【収集・保存・提供事業の量的・質的向上】

- 新しい事業については、先見性をもって選択と集中を行うことが必要である。また、事業内容が拡大していくことから、早期に現有スタッフ数、予算、仕事量について定量的な数値を出しておくことが必要と思われる。
- 現在までの評価されている事業を維持しつつ、新しい課題の導入は不可欠である。基準株は世界共通のリソースであり、独自性は出しにくい工夫をして欲しい。
- Microbiome研究などは得意とする分野として技術開発と合わせてリソース整備を進めて欲しい。

- ゲノム解析・情報との連携も不可欠である。
- 健康は有用微生物のイメージが強いが、病原微生物学者としては、将来に感染症の流行現象の指標となる病原体の収集、Data baseの整理などをお願いしたい。

【その他】

- 海外との連携は、先進国・途上国それぞれに対応した体制を整備し、一貫性を持って進めて頂きたい。
- 生物多様性条約(名古屋議定書の批准の可能性等)に対応して、国内外での情報交換に努めることが必要と思われる。

以上